

中学校

平成 16 年 度

# 教育研究員研究報告書

特 別 活 動

東京都教職員研修センター

# 目 次

## 主題 キャリア教育の視点に立った、 自己を生かす能力を高める特別活動の在り方

主題設定の理由	
1 共通研究主題設定の理由と研究のねらい	1
2 研究仮説	1
3 特別活動におけるキャリア教育の位置付け	2
4 個に応じた指導の一層の充実	3
5 分科会の主題と主題設定の理由	
(1) 分科会1の主題「情報活用能力・人間関係形成能力を高める進路学習の工夫」	
(2) 分科会2の主題「人間関係形成能力を高める学級活動の工夫」	
研究構想図	4
研究の内容	
1 基礎研究	5
(1) キャリア教育における2つの領域と特別活動で育成される態度や能力との関連	
(2) キャリア教育の視点に立った特別活動の年間指導計画	
年間指導計画の作成にあたって	
年間指導計画における指導のねらいと効果	
キャリア教育の視点に立った特別活動の年間指導計画	
2 調査研究	10
(1) 「中学生の職業観についての意識」と「事業所が中学生に望むこと」に関する調査	
(2) 「コミュニケーション能力」に関する調査	
3 実践研究	
(1) 実践事例1（進路学習の工夫）	12
職場体験学習「3daysチャレンジ」	
(2) 実践事例2（学級活動の工夫）	18
ロールプレイング「立場や役割に応じた会話を考えよう」	
研究のまとめと今後の課題	24

## 主題設定の理由

### 1 共通研究主題設定の理由と研究のねらい

中学校においては、自己を生かし、良き社会人として自己実現を図ることを目指した、生き方教育としての進路指導を実践している学校が多い。しかし、それらの活動も教育課程上の位置付けがあいまいで、組織としての継続性がなく、3年間を見通した計画になっていないなど課題も多い。学級活動においても、行事の準備等に時間を費やさざるを得ない中で、本来学級において行われるべき自主的・実践的な態度を育てる活動の工夫がされていない場合が多い。

平成16年9月に発表された「労働経済白書」によると、平成15年度のフリーター及び教育も受けず仕事にも就かない無業者（ニート）数が、過去最高を記録してる。また、教育庁指導部の調査によると、中学校における不登校生徒は多少の減少傾向にあるものの、平成15年度の30日以上欠席者数が7,000人に上っている。不登校の深刻化して「ひきこもり」につながるケースもあり、不登校の課題も大きい。これらは、学ぶ意義や働く意義を理解せず、人とのコミュニケーションが図れないために、社会や学校に自己を位置付けられずに起こる場合が多いと考える。そのために、一人一人の生徒に望ましい職業観・勤労観を育てることや、望ましい人間関係を確立し、自己を社会に位置づけられる生徒の育成が求められている。これらの現状をみたとき、学校教育におけるこれまでの進路指導では、不十分であったと考えざるを得ない。

特別活動が教育課程の中に位置づけられるようになった理由の一つに、「実際の生活経験や体験活動による学習を通して、全人的な人間形成を図る意義が重視されるようになったこと」がある。したがって、生徒一人一人の全人的な人間形成を図るためには、これまでの特別活動の在り方を見直し、学校行事や学級活動を関連付け、体験活動を取り入れ、体系化するなどの工夫をし、組織的に、3年間を見通した計画を作成して実施していく必要があると考えた。

本研究においては、「自己を生かす能力」を高め、主体的に自己実現を図ろうとする生徒を育成するために、どの学習場面でその力が身に付くのかを分析し、学校行事や学級活動に着目し、「自己を生かす能力」を高めるための特別活動の在り方を探ることを研究のねらいとした。

また文部科学省は、「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議 報告書」〔平成16年1月〕において「児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てる教育の推進」を提唱し、「子どもたちの全人的な成長・発達を支援する視点に立った取組を積極的に進めていく」ことを示している。それは、全人的な人間形成を図るという特別活動の意義と重なる。そこで、本研究では、特別活動の中にキャリア教育を位置付け、これまで行われてきた特別活動の取り組みを、キャリア教育の視点に立って見直すことにした。キャリア教育では、進路発達にかかわる能力を4つの領域「人間関係形成能力」「情報活用能力」「将来設計能力」「意志決定能力」に分けてている。本研究において、その4つの領域のうちの「人間関係形成能力」と「情報活用能力」に着目し、「自己を生かす能力」を高めることに迫ることとした。そこで、研究主題を、「キャリア教育の視点に立った、自己を生かす能力を高める特別活動の在り方」として、次の研究仮説のもとに研究を進めることとした。

### 2 研究仮説

体験的・体系的な活動を取り入れた活動の工夫を行えば、情報活用能力や人間関係形成能力が高まり、自己を生かす能力を高めることができるであろう。

### 3 特別活動におけるキャリア教育の位置付け

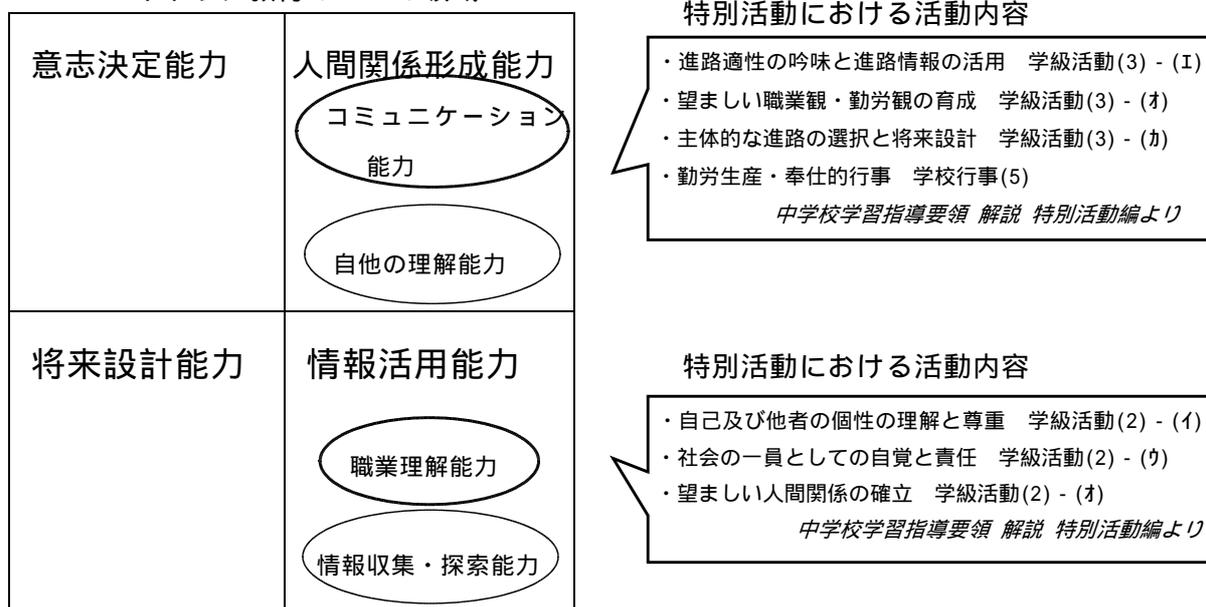
#### (1) 「人間関係形成能力」と「情報活用能力」とは

「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議 報告書」〔平成16年1月〕の中の職業観・勤労観を育む学習プログラムの枠組み（例）の中で、「人間関係形成能力」と「情報活用能力」の領域を次のように説明している。

領域	領域の説明	能力の説明
人間関係形成能力	他者の個性を尊重し、自己の個性を発揮しながら、様々な人々とコミュニケーションを図り、協力・共同してものごとに取り組む。	【自他の理解能力】 自己理解を深め、他者の多様な個性を理解し、互いに認め合うことを大切にして行動していく能力
		【コミュニケーション能力】 多様な集団・組織の中で、コミュニケーションや豊かな人間関係を築きながら、自己の成長を果たしていく能力
情報活用能力	学ぶこと・働くことの意義や役割及びその多様性を理解し、幅広く情報を活用して、自己の進路や生き方の選択に生かす。	【情報収集・探索能力】 進路や職業等に関する様々な情報を収集・探索するとともに、必要な情報を選択・活用し、自己の進路や生き方を考えていく能力
		【職業理解能力】 様々な体験等を通して、学校で学ぶことと社会・職業生活との関連や、今しなければならないことなどを理解していく能力

#### (2) キャリア教育と特別活動の関連図

##### キャリア教育の4つの領域



### 4 個に応じた指導の一層の充実

主体的な自己実現を果たすためには、一人一人がそれぞれの個性を理解し、それを生かすことができるように指導する必要がある。そのために本研究では、人とかかわる体験学習を取り入れることで、一人一人が自分の個性を理解し、それを生かそうとする場面を活動の中に意図的に設定した。

## 5 分科会の主題と主題設定の理由

本研究では、「自己を生かす能力を高める」という共通研究主題に迫るため、情報活用能力と人間関係形成能力に着目し、職業理解能力を高める進路学習とコミュニケーション能力を高める学級活動の工夫に取り組むこととし、2つの分科会に分かれて研究を進めた。

### (1) 分科会1の主題「情報活用能力と人間関係形成能力を高める進路学習の工夫」

文部科学省の調査では、平成15年度は中学校卒業者の97.6%が高等学校や専修学校へ進学した。しかし、「学校生活や学業の不適応」「進路変更」を主な理由とし、5,270人が都立高等学校を中途退学している。また、また学校卒業後も定職に就かないフリーターの数が217万人、教育も受けず求職活動もしないニートの数も52万人とそれぞれ過去最高となった。

現在の中学生の現状をみると、インターネットなどを利用し情報収集などは器用に行うが、情報を目的にあわせて活用することは苦手な面がある。進路選択においても「とりあえず進学」という考えに流され、個人面談では「親や塾が勧めるから」など主体性のない生徒も多くみられる。学校生活・社会生活の中で、進路を考える上での体験の機会が少ない現状もある。職業的・社会的体験の機会を増やし、生徒一人一人が情報を適切に活用し、主体的な進路選択ができるよう支援していく方策が必要である。また、社会生活の中では、その場に適したマナーやコミュニケーションが必要であり、職業的・社会的体験の機会にそれを意図的に身に付ける必要があると考えた。そこで、分科会1では、キャリア教育の領域である情報活用能力と人間関係形成能力に着目した。職業や上級学校に関する調べ学習やその発表会、卒業生や地域の職業人の話を聞く会、地域と連携しての3日間の職場体験など、職業理解能力とコミュニケーション能力を高める3年間を見通した学習プログラムを作成し、その実践を通して情報活用能力と人間関係形成能力を高めることをねらいとして分科会1の主題を設定した。

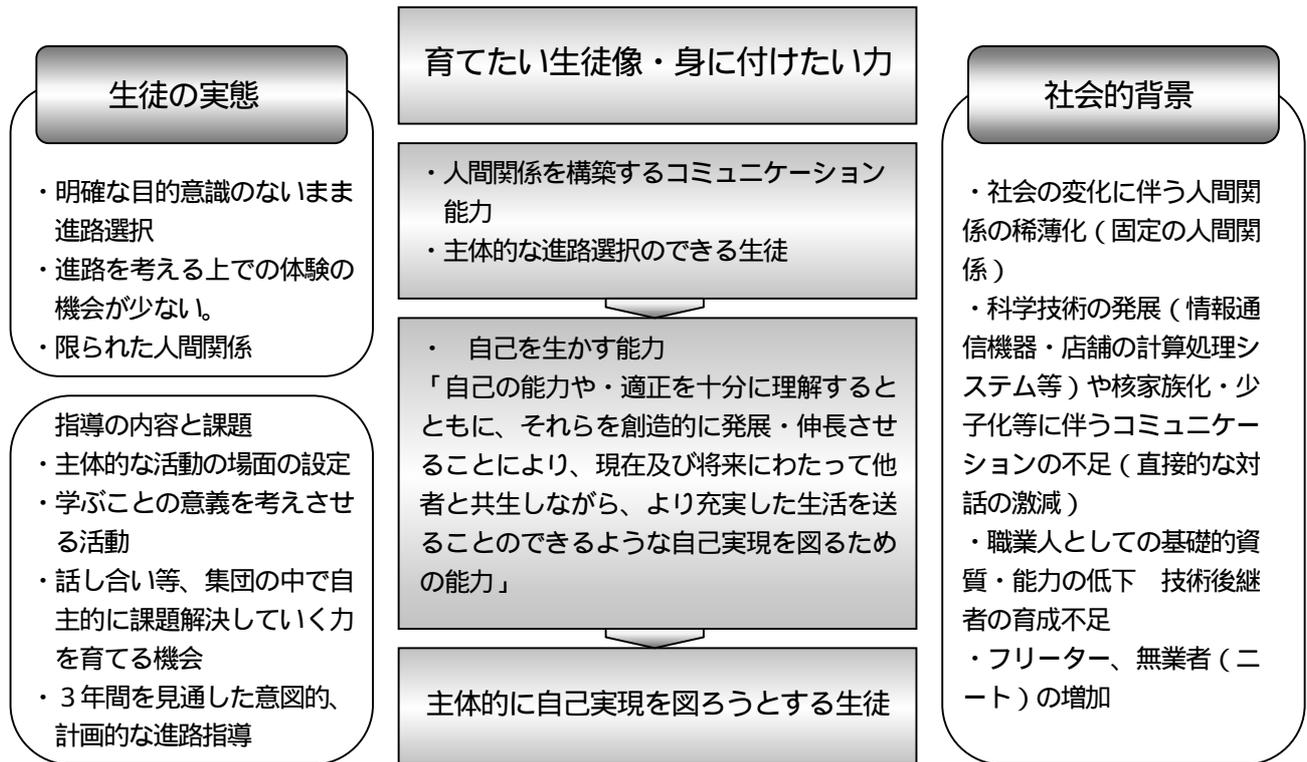
### (2) 分科会2の主題「人間関係形成能力を高めるための学級活動の工夫」

「東京の教育に関する都民意識調査(報告書)平成15年6月」によると、「企業からみる理想の教育として重要と思われるものは何か」という質問に対して、「コミュニケーション能力を育てる教育」が上位を占めている。平成16年4月教育庁が策定した「東京都教育ビジョン」においても、「自分の考えを正確に相手に伝え、相手の考えや思いを正しく理解するコミュニケーション能力は、人間関係の基礎になるもの」として、その育成の必要性を提言している。

ところが、中学生を取り巻く生活環境をみると、携帯電話の電子メールや、インターネットの使用などで、一日中言葉を発しなくても生活できる。つまり直接的に会話することがなくても、意思を伝達することができる。しかし、望ましい人間関係を築くためには、直接的なコミュニケーションが必要である。そこで学校では、意図的計画的にコミュニケーションを図る機会を設けることが必要となってきた。

コミュニケーション能力を育てるためには集団活動を通して取り組む必要がある。そこで、分科会2では、キャリア教育の領域である人間関係形成能力に着目した。ロールプレイングなどの体験活動を取り入れた、コミュニケーション能力を高める学級活動の指導計画を作成し、その実践を通して人間関係形成能力を高めることをねらいとし分科会2の主題を設定した。

## 研究構想図



## 研究主題

キャリア教育の視点に立った、自己を生かす能力を高める特別活動の在り方

- 分科会 1 情報活用能力と人間関係形成能力を高める進路学習の工夫
- 分科会 2 人間関係形成能力を高める学級活動の工夫

## 研究仮説

体験的・体系的な活動を取り入れた活動の工夫を行えば、情報活用能力や人間関係形成能力が高まり、自己を生かす能力を高めることができるであろう。

## 研究のねらい

キャリア教育の2つの領域「情報活用能力」と「人間関係形成能力」に着目し、3日間の職場体験を取り入れた進路学習の工夫や、ロールプレイングを取り入れた学級活動の工夫を通して、生徒一人一人の「自己を生かす能力」を高めることを研究のねらいとした。

## 研究の内容と方法

### 基礎研究

- ・文献研究

「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書」「中学校学習指導要領解説 特別活動編」等

- ・キャリア教育の視点に立った、特別活動の年間指導計画作成

### 調査研究

- ・「中学生の職業観についての意識」(対象：生徒)
- ・「事業所が中学生に望むこと」(対象：職場体験先の事業所)
- ・「コミュニケーション能力」に関する意識調査(対象：生徒)

### 授業研究

- 分科会 1：情報活用能力と人間関係形成能力を高める進路学習の工夫
- 分科会 2：人間関係形成能力を高める学級活動の工夫

## 研究の内容

### 1 基礎研究

基礎研究においては、「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議 報告書」及び「中学校学習指導要領解説 特別活動編」等にあたり、キャリア教育と特別活動の関連を分析し、それをもとにキャリア教育の視点に立った年間指導計画を作成した。

#### (1) キャリア教育における2つの領域と特別活動で育成される態度や能力との関連

特別活動の中では学級活動と学年行事において、進路指導に効果的な活動を行うことができると考えた。研究主題設定の理由で述べたように、本研究ではキャリア教育における進路発達にかかわる4つの領域の中の、「人間関係形成能力」「情報活用能力」について着目した。そこで中学校学習指導要領解説-特別活動編-から、2つの能力に関連すると考えられる態度・能力を表にまとめた。( )内はそれぞれのねらいに対する活動方法例である。

	学級活動	学校行事
人間関係形成能力	<p>(2)ア 個人及び社会の一員としての在り方に関すること</p> <p>(イ)自己及び他者の個性の理解と尊重 (グループエンカウンター・講話等) 自己の個性や適性、長所と短所、興味や関心の動向などを含めて、自己の個性をより正しく理解する。また、他者の個性を理解し尊重することを通して、他者への思いやりを深める。</p> <p>(ウ)社会の一員としての自覚と責任 (話し合い・ディベート・マナー講習会等) 社会生活上のルールやモラルの意義について考えたり、正義感や公正さを重んじる心、自律・自製の心などの大切さについて理解するとともに、社会生活を営む上で必要なマナーやスキルについて体験的に習得していく。</p> <p>(オ)望ましい人間関係の確立 (ロールプレイング・体験発表と話し合い等) 家庭における人間関係、学校における生徒間の多様な人間関係、教師と生徒の人間関係、地域の人間関係など様々な人間関係について振り返りその集団の中での行動の仕方や生き方について考えさせ、望ましく円滑な人間関係の確立に資するようにする。</p>	<p>(5)勤労生産・奉仕的行事 (勤労体験・ボランティア活動等) ア生徒が相互に協力しあって実践し、優れた校風や伝統を築くことに役立つこと。 イ勤労や社会奉仕の尊さを体験し、創造する喜びや共にいきる喜びを味わうことができること。 ウ勤労生産の体験や職場見学を通して、自己の能力・適性等についての理解を深め、地域社会への奉仕や産業への目を開くとともに、さらに将来の職業や進路に対する関心と理解を深めること。 エ学校や地域社会における奉仕的行事を計画、実践することにより、相互の効力や助け合いの態度を培うとともに、地域社会についての理解を深め、社会奉仕・社会貢献の精神を養うこと。</p>
情報活用能力	<p>(3)学業生活の充実、将来の生き方と進路の適切な選択に関すること</p> <p>(エ)進路適正の吟味と進路情報の活用 (地域の社会人や職業人の講話・上級学校訪問等) 将来の生き方や進路との関係で自分を知ることができるよう、また、人の生き方や進路に関する興味や関心を広げるとともに、当面する進学や就職にかかわる情報を収集、活用して、当面する進路に関する理解を深める。</p> <p>(オ)望ましい職業観・勤労観の形成 (職業調べや勤労体験の事前調査・発表等) 職業・勤労に関する実際の体験などを通して、生徒が、働くことの楽しさや厳しさを知り、職業・勤労についての関心を高めるとともに、職業・勤労の目的や意義を、人は生計を維持するためばかりでなく、職業を通じて社会の一員としての役割を果たし、自己の能力・適性を発揮しているといった視点から理解する。</p>	<p>(5)勤労生産・奉仕的行事 (職業調べ・勤労体験・職業人の講話等) ア生徒が相互に協力しあって実践し、優れた校風や伝統を築くことに役立つこと。 イ勤労や社会奉仕の尊さを体験し、創造する喜びや共にいきる喜びを味わうことができること。 ウ勤労生産の体験や職場見学を通して、自己の能力・適性等についての理解を深め、地域社会への奉仕や産業への目を開くとともに、さらに将来の職業や進路に対する関心と理解を深めること。 エ学校や地域社会における奉仕的行事を計画、実践することにより、相互の効力や助け合いの態度を培うとともに、地域社会についての理解を深め、社会奉仕・社会貢献の精神を養うこと。</p>

## (2) キャリア教育の視点に立った特別活動の年間指導計画

### 年間指導計画の作成にあたって

特別活動のねらいを十分に達成するためには、各学年での発達段階に応じた学習の内容を適時適切に配置し、3年間を見通した年間指導計画に基づいた実践が必要である。

本研究をすすめるにあたり、各研究員の所属校の年間指導計画について、キャリア教育の視点に立って学習内容の系統性を見直した。その結果、現在の年間指導計画では、系統性が明確でない場合が多いことが分かった。特別活動の中で「キャリア教育」のねらいを達成するために、各学年において、将来社会人・職業人として自立するために必要とする能力や態度を育て、全人的な成長・発達を促す活動を計画的に行い、生徒一人一人の勤労観・職業観を育てることとした。また、集団活動の中で個を生かすための指導を行うことにより、生徒一人一人の自己を生かす能力を効果的に高められると考えた。

年間指導計画に基づいた授業の実施にあたって、まず各学年年間35単位時間の授業時数を確保した。中学校における学級活動の指導上外すことのできない時間や学校生活の充実と向上に関することの指導に充てる時間をあらかじめ確保した。その上でキャリア教育の視点に立った活動に活用できる時数を工夫した。生徒一人一人の職業理解能力を育てる効果が期待できる進路指導と、コミュニケーション能力を高めることが期待できる学級活動等を通じて、人間関係形成能力や情報活用能力を育成することができるという考えにたって3年間を見直した系統的な計画を立てることとした。また、これらの活動は学年単位で行う活動ではなく、学校全体として3年間を見通した系統的な計画でなければならない。

次に、学級活動の年間指導時数35単位時間のうち、キャリア教育の視点に立った指導をどの程度位置付けることが適切であるかを考えた。情報活用能力を高める活動として各学年8単位時間と学校行事の開催時期に1時間、人間関係形成能力を高める活動として各学年4単位時間と学校行事の開催時期に1時間の合計14時間の実施が必要だと考えた。

以上のように、学級活動の年間指導時数35単位時間のうち14単位時間を、キャリア教育の視点に立った、情報活用能力と人間関係形成能力を高める指導にあてた。

なお年間指導計画に基づいた活動を行うにあたっては、学習指導要領に位置付けられた、特別活動における活動内容の指導を、キャリア教育の視点に立って行うこととし、また学習指導要領解説 - 特別活動編 - のどの領域にそれぞれの活動が位置付いているかを考慮することとした。

### 年間指導計画における指導のねらいと効果

特別活動においては、望ましい集団活動を通して、社会的な資質や個性の伸長をはかり、自主的・実践的な態度を育てることをねらいとしている。本研究においては、指導内容を「情報活用能力を高める活動」と「人間関係形成能力を高める活動」の二つに焦点をあて、生徒一人一人の勤労観・職業観を育てることを指導のねらいとし、「働くことの意義」や「個に応じた指導」とも関連性をもたせることによって、生徒一人一人の自己を生かす能力が高まることを目指した。

キャリア教育の視点に立った特別活動の年間指導計画  
第1学年

目標	望ましい集団活動の育成の中で、社会的な資質や個性の伸長をはかり、自主的実践的な態度を育てていくこと							
ねらい	生徒一人一人の勤労観・職業観を育てること							
月	特別活動の指導例	キャリア教育の領域との関連				情報活用能力を高める活動	人間関係形成能力を高める活動	内容
4	入学式	人間	情報	意思	将来		自己紹介・個人目標 構成的グループエンカウンター の手法を活用し、自分の長所・目標をクラスで発表する また他の人の発表を聞き、考えを理解する	C(1)
	生徒会活動紹介							B(1)ア
	学級作り							A(1)(ア)
	自己紹介・個人目標							A(2)ア(1)
	学級目標・委員・係決め							A(1)(イ)
	新入生歓迎会							B(1)エ
5	部活動ガイダンス						B(1)エ	
	生徒総会に向けて					運動会に向けて 学級・委員会で自己の意見を述べる 自分の考えをまとめて発表する	B(1)ア	
	生徒総会						B(1)ア	
	運動会に向けて						A(1)(ウ)	
定期考査・学習計画表								
6	運動会に向けて					職業観について(進路) 自分の身近にいる人に取材し 仕事についての知識を深める	職業観について(進路)	A(1)(ウ)
	運動会						自分の身近にいる人に取材し 情報の裏付けを行う	C(3)
	進路・職業観について						A(3)(エ) A(2)ア(イ)	
7	定期考査・学習計画表					職業調べ事前学習(進路) 課題について学習の仕方を指導する 職業について画用紙などに新聞形式でまとめる 発表方法を学級・学年とする	職業調べ事前学習(進路)	A(3)(オ) A(2)ア(イ)
	進路・職業調べ事前学習						調べ学習を通して、学級の中で発表する また発表を聞くことで様々な職業についての情報を収集するよう指導する	
	2学期の反省							
	夏季休業日前指導							
8	進路・職業調べ					職業調べ(進路) 課題を各自行う	職業調べ(進路)	A(3)(オ) A(2)ア(イ)
	(夏休みの宿題)						友達と意見を交換する	
9	生徒会役員選挙					職業調べ発表(進路) 課題をまとめ、学級で発表し学級の代表が学年で発表する 他の人の発表を聞き、さまざまな職業を知る	職業調べ発表(進路)	B(1)ア A(1)(イ) A(3)(ア) A(2)ア(イ)
	委員・係決め						課題をまとめ、学級で発表し学級の代表が学年で発表する 他の人の発表を聞き、様々な職業を知る	
	進路・職業調べ発表							
10	定期考査・学習計画表					職業を学ぶ(進路) インターネットや職業を紹介した書物を利用し、職種について必要な資格などを調べる	文化祭に向けて 今まで学習してきた成果を学年展示・舞台上で発表する	A(3)(ア) A(3)(イ) A(1)(ウ)
	進路・職業を学ぶ							
	文化祭に向けて							
11	文化祭					文化祭 職業調べ・職業を学ぶで学んだことの成果を展示・発表する	文化祭 職業調べ・職業を学ぶことで学んだ成果を展示・発表し、友達同士で評価をする	C(2) A(3)(ア) A(2)ア(イ)
	進路・職業について発表							
	定期考査・学習計画表							
12	遠足事前学習					自己理解(進路) 職業適性検査などを実施し、自己の理解を深める 職業調べなどで学んだ知識を活用し自分に合う職業をワークシートなどを利用して考える	自己理解(進路)	A(1)(イ) C(4) A(3)(エ) A(2)ア(イ)
	遠足						ブレインストーミングの手法を用い、自分が調査した以外の職業について、学級内の発表を聞き、自分にふさわしい職業への理解を深める	
	進路・自己理解							
	2学期の反省							
1	書き初め展					職場訪問事前指導(進路) 職場訪問時におけるマナーについて、ロールプレイングの手法を活用し、必要最低限の事柄を指導し、理解させる	職場訪問事前指導(進路)	C(2) A(3)(ア) A(2)ア(イ)
	新年の抱負						職場訪問先についての資料を入手し、交通手段・訪問時間・質問事項について確認する	
2	進路・職場訪問準備					職場訪問(進路) 仕事について充実感・達成感や難しい点について、職場訪問先での体験や質問を通して理解を深める	職場訪問(進路)	A(3)(ア) A(2)ア(イ) C(5)ウ A(1)(ウ)
	職場訪問						学習した基本的な礼儀・作法を、実際の職場訪問で応用する 職場訪問において、必要な情報について調べてくる	
	3年生を送る会準備							
3	3年生を送る会					私のライフプラン(進路) 1年間進路学習で学んできたことを踏まえ、ポートフォリオで蓄積した資料を活用し、将来の方向性を見据えた自分の将来設計を作成する	私のライフプラン(進路)	A(1)(ウ) B(1)エ A(3)(カ) C(1) A(1)(ウ)
	3年生を送る会						1年間の自分の学習成果を文章でまとめる 1年間の学習成果を文書として残し、将来についてお互いに話し合う	
	1年間の反省							
	進路・私のライフプラン							
	卒業式 終了式							
	新入生歓迎会準備							

は学校行事、 は人間関係形成能力を高める活動、 は情報活用能力を高める活動、 は両方にまたがる活動である  
キャリア教育の視点に立った位置付けの中の4つの言葉はそれぞれ、人間は人間関係形成能力、情報は情報活用能力、意思は意思決定能力、将来は将来設計能力の略である(第2学年、第3学年についても同様である)  
特別活動の指導例の中の の印は年間指導計画の作成にあたっての授業時数14時間にあたるものである  
(第2学年、第3学年についても同様である)

第2学年

目標	・望ましい集団活動の育成の中で、社会的な資質や個性の伸長をはかり、自主的実践的な態度を育てていくこと							
ねらい	・生徒一人一人の勤労観・職業観を育てること							
月	特別活動の指導例	キャリア教育の領域との関連				情報活用能力を高める活動	人間関係形成能力を高める活動	内容
		人間	情報	意思	将来			
4	入学式						自己紹介・個人目標 構成的グループエンカウンター の手法を活用し、自分の長所・目標をクラスで発表する また他の人の発表を聞き、 考えを理解する	C(1) A(1)(ア) A(2)ア(1) A(1)(イ) A(1)(ウ) B(1)エ
	学級作り							
	自己紹介・個人目標							
	学級目標・委員・係決め							
	新入生歓迎会準備 新入生歓迎会							
5	生徒総会に向けて 生徒総会						生徒総会に向けて 学級・委員会で自己の意見を 述べる 自分の考えをまとめて 発表する	B(1)ア B(1)ア A(1)(ウ) A(1)(イ)
	運動会に向けて 移動教室事前学習							
	定期考査・学習計画表							
	移動教室 移動教室							
6	運動会に向けて 運動会						運動会に向けて 選手を選抜したり、練習日程 をたてる 学級内の意見をま とめる	A(1)(ウ) C(3) A(1)(イ) C(4)
	移動教室事前・事後学習 移動教室							
	定期考査・学習計画表 移動教室事後学習							
7	1学期の反省 夏季休業日前指導							A(1)(ウ)
	生徒会役員選挙					職場体験面接練習(進路) 必要な言葉遣いや対人関係を 学ぶためにプレーストリーミ ングの手法を活用し、職業へ の理解を深める	職場体験面接練習(進路) 礼儀・作法について基本的な ことについて学び、学級内で 実践する 新学期にあたって 所属感や連帯感を深めるため に傾聴訓練を行う	B(1)ア A(1)(イ) A(1)(ウ) A(3)ア(イ)
	委員・係決め							
新学期にあたって 進路・職場体験面接練習								
10	定期考査・学習計画表 進路・職場体験 マナー講習					職場体験マナー講習(進路) 地域企業の社会人からマナー 講話を聞き、職場でのマナー について理解を深める 職場体験事前学習(進路) 自分の希望する体験先を今ま での学習を踏まえ選択する	職場体験マナー講習(進路) 外部から講師を招聘し、礼儀 ・礼法について学ぶ ロール プレイングを用い互いに面接 練習を実施し、学年全体が面 接の成果を上げるように努め る	A(3)(ア) A(1)(ウ) C(5) A(3)(ウ) A(2)ア(イ) A(1)(ウ)
	講演会							
	進路・職場体験事前学習							
	文化祭に向けて							
11	文化祭					職場体験(進路) 同一職場先で3日間連続の職 場体験学習を行い、仕事とは 何かを学ぶ機会とする 職場体験事後学習(進路) 職場ごとにグループで壁新聞 を作成し、発表する	職場体験(進路) 職業体験を実施し、お礼状の 発送をする 報告書を作成し 職場先に送付する 学習発表 会の準備をする	C(2) A(3)(オ) A(1)(ウ) C(5)ウ A(1)(ウ)
	進路・職場体験事前学習							
	職場体験							
	進路・職場体験事後学習							
	定期考査・学習計画表 遠足事前学習							
12	遠足事前・事後学習					席替え 豊かな共同生活を送るために グループエンカウンターの手 法を取り入れた席替えをする	A(1)(イ) A(1)(ウ) C(4)	
	席替え							
	遠足							
	2学期の反省 冬季休業日前指導							
1	書き初め展					上級学校調べ事前指導(進路) 学校ごとの特徴などを確認し 調べ学習のガイダンスを行う	上級学校調べ事前指導(進路) お互いに相談し、グループを 作り、訪問する上級学校を調 べる	C(2) A(1)(ウ) A(3)(エ)
	新年の抱負							
	新学期にあたって 進路・上級学校調べ 事前指導							
2	定期考査・学習計画表 進路・上級学校調べ事前指導					上級学校調べ(進路) インターネットや書物などを 用い、上級学校について詳しく 調べ、課題を新聞形式にま とめ発表する	上級学校調べ(進路) 上級学校訪問し、礼状を発送 する 報告書の作成し、学習 発表会の準備をする	A(3)(エ) A(3)(エ) A(3)(エ) A(1)(ウ)
	上級学校調べ							
	進路・上級学校調べ事後指導							
	3年生を送る会準備							
3	3年生を送る会準備 3年生を送る会					私のライフプラン(進路) 1年間進路学習で学んできた ことを踏まえ、ポートフォリ オで蓄積した資料を活用し、 将来の方向性を見据えた自分 の将来設計を具体的に作成す る	私のライフプラン(進路) 1年間の自分の学習成果を文 章でまとめる 1年間の学習 成果を文書として残し、将来 についてお互いに話し合う	A(1)(ウ) B(1)エ A(3)(カ) C(1) A(1)(ウ)
	1年間の反省							
	進路・私のライフプラン							
	春季休業日前指導							
	卒業式 終了式 新入生歓迎会準備							

は学校行事、 は人間関係形成能力を高める活動、 は情報活用能力を高める活動、 は両方にまたがる活動である

第3学年

目標	望ましい集団活動の育成の中で、社会的な資質や個性の伸長をはかり、自主的実践的な態度を育てていくこと							
ねらい	生徒一人一人の勤労観・職業観を育てること							
月	特別活動の指導例	キャリア教育の領域との関連				情報活用能力を高める活動	人間関係形成能力を高める活動	内容
		人間	情報	意思	将来			
4	入学式						自己紹介・個人目標 自分の長所・目標をクラスで発表する また他人の考えをよく聞く 自分の情報を正確に伝え、相手の情報を正確に聞き取ることを学習する	C(1) A(1)(ア) A(2)ア(1) A(1)(イ) A(1)(ウ) B(1)エ
	学級作り							
	自己紹介・個人目標							
	学級目標・委員・係決め							
	新入生歓迎会準備							
	新入生歓迎会 修学旅行事前学習							
5	生徒総会に向けて 生徒総会					卒業生の話を書く会(進路) 卒業生から講話を聞き、ディスカッション形式で討論し、進路とは何かを考え、見識を深める	生徒総会に向けて 学級・委員会で自己の意見を述べる 自分の考えをまとめて発表する 自分たちの意見を学校生活全体に反映させる	B(1)ア B(1)ア A(1)(ウ) A(3)(ア) A(1)(イ)
	運動会に向けて 進路・卒業生の話を書く会							
	修学旅行事前学習							
	定期考査・学習計画表							
	運動会に向けて 運動会 修学旅行 修学旅行事前・事後学習							
6	定期考査・学習計画表					進路説明会(進路) 自分の進路について情報を得方向性を検討する 進路・上級学校訪問事前指導 課題を与え、上級学校見学のガイダンスを行い、意識を高める	進路説明会(進路) 保護者・生徒対象の進路説明会を企画し、本年度の進路情報を得る それを元に担任と進路についての話をする	A(1)(ウ) C(3)(4) A(1)(イ)
	進路・進路説明会							
	進路・上級学校訪問事前指導							
	1学期の反省							
	夏季休業日前指導							
8	進路・上級学校訪問 (夏休みの宿題)					上級学校訪問(進路) 上級学校訪問の課題を各自行い、ワークシートにまとめる	上級学校訪問(進路) 上級学校を友達と訪問する	A(3)(エ) A(1)(ウ)
	生徒会役員選挙					進路説明会(進路) 高校招聘説明会を行い、講話を聞き、進学とは何かを自覚し意識を高める 上級学校訪問事後学習(進路) 課題をまとめ、上級学校について理解を深め、自分の進路について方向性を考える	進路説明会(進路) 保護者・生徒対象の進路説明会を企画し、本年度の進路情報を中心として情報を提供する 質疑応答を行い、必要な情報を入手する	B(1)ア A(1)(イ) A(3)(エ) A(3)(エ) A(1)(ウ)
9	委員・係決め							
	進路・進路説明会							
	進路・上級学校訪問 事後学習							
	定期考査・学習計画表							
10	進路・進路説明会					進路説明会(進路) 募集要項等のガイダンスを行い入試への理解を深める	文化祭に向けて 一人一人が役割を分担し、協力する	A(3)(エ) A(1)(ウ)
	文化祭							
	進路・進路相談					進路相談(進路) 進路先を具体化し、進路について考えをまとめる	面接練習(進路) ロールプレイングの手法を用い面接練習を行い、礼法についての一般事項について学習する 自分の考えを相手に伝える話方を学ぶ	C(2) A(3)(カ) A(3)(エ) A(2)ア(イ)
11	定期考査・学習計画表					面接練習(進路) 面接の練習を行い、試験の面接に備える		
	進路・面接練習							
	進路・進路相談					進路相談(進路) 自己の個性や興味・関心に基づいてよりよい選択を行い、進路先を決定する	進路相談(進路) 礼儀・作法について学び、相手に対して自分の考えを知ってもらう	A(3)(カ) A(3)(カ)
	進路・進路決定に向けて							
12	2学期の反省							
	冬季休業日前指導							
	書き初め展					受験指導(進路) 受験についてのアドバイスを理解し、自分の選択した進路に進めるよう努力する	受験指導(進路) 自分の必要な資料入手し、願書を作成したり送付したりする	C(2) A(3)(カ)
1	新年の抱負							
	進路・受験指導							
2	定期考査・学習計画表					受験指導(進路) 受験についてのアドバイスを理解し、自分の選択した進路に進めるよう努力する また進路決定後の諸手続を行う	受験指導(進路) 私立高等学校・都立高等学校の願書を手渡し、清書後作成し提出する	A(3)(カ)
	進路・受験指導							
3	3年生を送る会					私のライフプラン(進路) 中学校3年間で学んできた進路学習を踏まえ、ポートフォリオで蓄積した資料を活用し将来の方向性を見据えた自分の将来設計を具体的に考え作成する	私のライフプラン(進路) 1年間の自分の学習成果を文章でまとめる。3年間の経験を記録として残し、それを元にお互いに話し合う 卒業してからの進路選択の資料として活用する	B(1)エ A(3)(カ) C(1)
	1年間の反省							
	進路・私のライフプラン							
	卒業式							

は学校行事、 は人間関係形成能力を高める活動、 は情報活用能力を高める活動、 は両方にまたがる活動である

## 2 調査研究

### (1) 「中学生の職業観についての意識」と「事業所が中学生に望むこと」に関する調査

分科会 1 においては、主題に迫るため、「中学生の職業観についての意識」と「事業所が中学生に望むこと」に関するアンケート調査を行った。調査対象は、都内中学校 5 校の 1 年生から 3 年生で 1,535 名と各校からの職場体験先である 84 事業所とした。

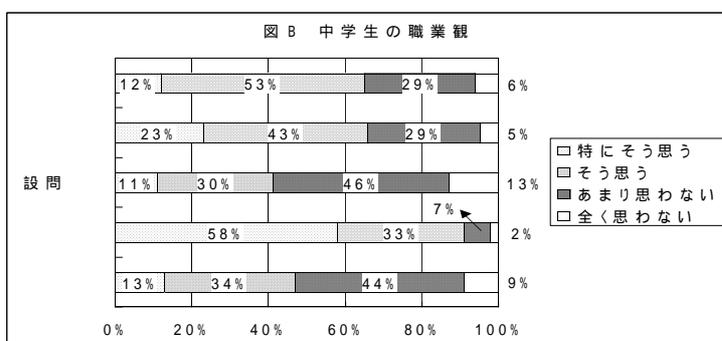
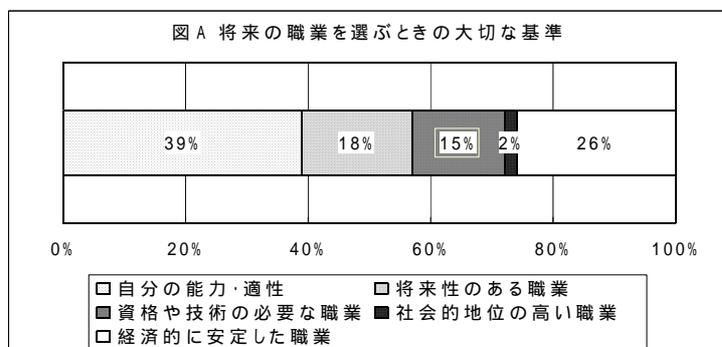


図 B 中学生の職業観に関する設問

経済的安定よりも、世の中のためになる職業に就きたい。  
 余暇を楽しむなど、時間的なゆとりよりも、自分がその仕事に打ち込める職業に就きたい。  
 将来、高い地位につける職業に就きたい。  
 自分の能力を十分に発揮できる職業につきたい。  
 会社などに勤めて、組織の一員として働くよりも、個人として仕事ができる職業に就きたい。

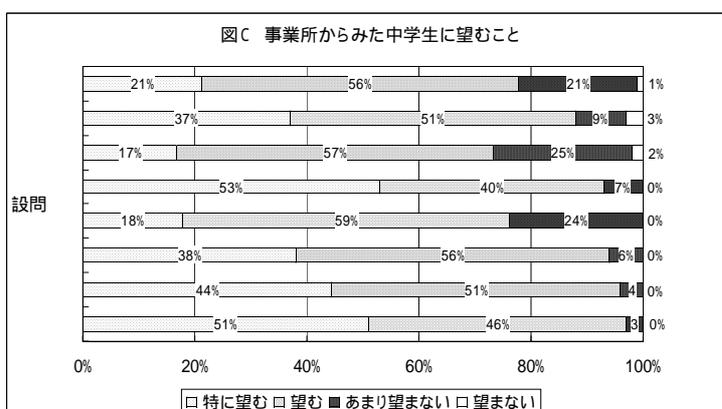


図 C 事業所からみた中学生に望むことに関する設問

仕事に対する積極性      仕事に対する協調性  
 個性がある      責任感      基礎学力      時間に対する意識  
 言葉遣い      コミュニケーション能力

調査の結果から、将来の職業を選ぶときの基準として「自分の能力・適性」をあげた者が最も多く 39 % となった(図 A)。また、職業観の調査(図 B)においても、設問 4 の「自分の能力を十分に発揮できる職業に就きたい」と考えている生徒が 91 % となり、もっとも多い結果となった。しかしながら、同時に行った別の調査では、「自分の特性を理解している」と答えた者は 66 % にとどまり、十分に自己理解ができているとは言いがたい。よって、「自己を生かす」ためには、今後自己理解を深める指導が必要であると考えられる。

一方、事業所側から「中学生に対して望むこと」(図 C)として、事業所の職種を問わず、どの事業所においても「特に望む」と「望む」を合わせると「コミュニケーション能力」と回答しているところがもっとも多く 97 % であった。また、「特に望む」こととしては設問 4 の「責任感」が 53 % となった。

これらのことから、生徒が自己を生かす能力を高められるようにするためには、自己の能力・適性を理解するとともに、職業に関する体験的活動を計画的に取り入れ、コミュニケーション能力を高めていく支援が必要であると考えた。

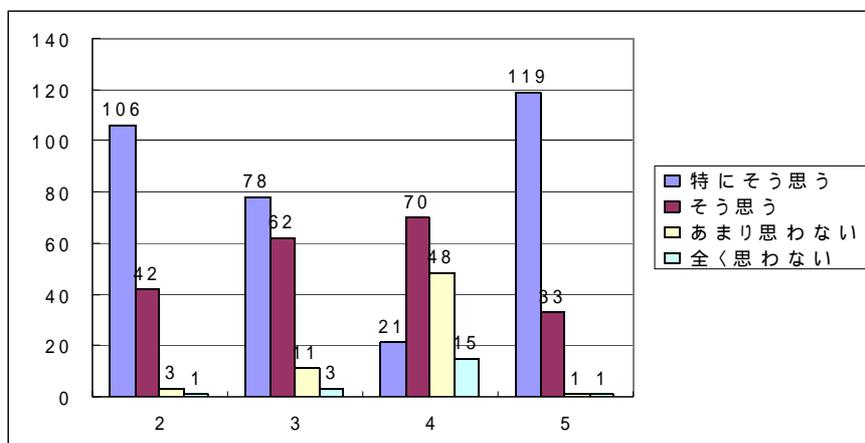
## (2) 「コミュニケーション能力」に関する調査

分科会2においては、主題に迫るため、職場体験を終えた中学校第2学年の生徒156名に、コミュニケーション能力に関する意識調査を行った。

(コミュニケーション能力については、「多様な集団・組織の中でコミュニケーションや豊かな人間関係を築きながら、自己の成長を果たしていく能力」と定義した。)

項目1	職場体験先はどこだったか
項目2	職場体験のとき、コミュニケーション能力が必要だと感じたか
項目3	学校生活で、コミュニケーション能力が必要だと感じているか
項目4	学校生活で、自分自身がコミュニケーション能力を発揮できていると思うか
項目5	これから先の社会生活の中でコミュニケーション能力は必要だと思うか
項目6	5について、なぜそのように思ったのか

質問の項目2～5について集計した結果は以下の通りである。(有効回答数154名)



この結果から見ると、学校生活およびこれからの社会生活においてコミュニケーション能力は必要だと感じているものの、自分自身はその能力をそれほど発揮している実感していない現状がうかがえる。また、これから先の社会生活の中でなぜコミュニケーション能力は必要であるか、という項目6の問いに対して、「コミュニケーションが取れないと、人間関係がうまく作れないから」や「どのような職業に就いても人と必ず関わるから」といった回答が全体の半数程度見られた。

分析の結果、コミュニケーション能力は社会生活の中で必要であると考えているにもかかわらず、それを発揮しているという実感が少ないことが分かった。この理由として、学校生活で、コミュニケーション能力を生かせる場面が少ないからであると考えた。

そのため、一人一人のコミュニケーションの機会を増やし、コミュニケーション能力を発揮している実感できる活動を意図的・継続的に取り入れることが必要であり、コミュニケーション能力を高めることで望ましい人間関係の構築につながり、それが将来、社会人・職業人として自立し、時代の変化に力強くかつ柔軟に対応していけるようになると考えた。そのために、具体的な授業実践を通してその効果を確かめることにした。

そこで、本分科会では、コミュニケーション能力を高めるような学級活動の指導案の作成を行い、検証授業を行うこととした。

### 3 実践研究

#### (1) 実践事例 1 情報活用能力と人間関係形成能力を高める進路学習の工夫

題材名 職場体験学習

単元名 「3daysチャレンジ」

対象 中学校第2学年

題材設定の理由

本活動は、3年間を見通した指導計画（前記）に基づいて実施する。第1学年では、「職業調べ」「職場訪問」を通して身近な職業について知ることに重点を置いた。第2学年では、第1学年の学習を発展させ、地域と連携して「職場体験」を行い、体験活動そのものに重点を置いた。単発の活動ではなく、第1学年からの学習の成果を踏まえ、事前学習から体験学習・事後学習へと結び付けていくことに視点を置いている。第3学年の進路学習へと結び付けていくことは言うまでもない。

一方、この職場体験は、同一職場に3日間連続して通うことで、働くことの尊さや苦勞や意義をより直接的にとらえ感じ取らせる良い機会になると思われる。また、生徒が個々の職場で責任を明確にもち役割を果たしてくることを通して、「自己を生かす」ということが体験的に理解されると考えた。

キャリア教育の視点に立ち、生徒一人一人が働くことの、幅広く情報を活用して、主体的に進路選択をする能力を育てたいと考え本題材を設定した。

単元のねらい

- ・3日間の勤勞体験を通して働くことの意義を理解し、望ましい職業観・勤勞観を育てる。
- ・社会人とのかかわりの中でコミュニケーション能力を高め、望ましい人間関係を構築する。

評価の観点と評価規準

	ア.関心・意欲・態度	イ.思考・判断	ウ.技能・表現	エ.知識・理解
評価	自己の生き方、学ぶこと、働くことなどに関心を持ち、意欲をもって自己のよさを発見し、積極的に伸ばそうとしている。	自己の将来に希望を抱き、その実現に向けて今学ぶべきことや自己の生き方について考え、判断している。	主体的に学び方を身に付け、学習や進路選択に必要な情報を収集、活用し、自己の個性や学習の成果を進路の選択に生かすことができる。	学ぶこと、働くことの意義、進路選択に必要な情報収集の仕方などを知り、自己の能力、適性などを理解している。
規準	将来の社会人としての生き方に関心を持ち、創造する喜びや共に生きる喜びを味わいながら、勤勞生産活動に進んで取り組もうとしている。	体験的な活動を経験しながら、勤勞の価値や人間としての生き方について深く考えている。	職業や進路の選択に約立つ勤勞観や職業観などを身に付け、学校や地域社会の活動に生かすことができる。	学校内外の勤勞生産を通して、勤勞の尊さや意義を認識し、具体的な活動の仕方を理解している。

上記の表は、内容のまとめりごとの評価規準であるA「学級活動」の(3)、及びC「学校行事」の(5)に基づく。

活動の流れとねらい及び評価方法

内 容	学 習 方 法	ねらい(評価規準との関連)	評 価 方 法
(1)概要説明 希望調査	・学年集会で概略を知る。 ・体験してみたい職場の希望調査に答える。	・自らの生活や行動を見つめ直し、職業に対して自主的・実践的に取り組む。(関意態)	・活動の観察。 ・希望調査の点検。
(2)事前学習1 (礼儀作法の学習)	・ワークシートを用い、様々な場面の対応の仕方を学ぶ。(言葉遣い・態度・姿勢など)	・社会生活上のルールやモラルの意義について考える。(思判) ・社会の一員としての自覚をもち、責任ある行動をとろうとする。(技表)	・活動の観察。 ・ワークシートの確認。
(3)事前学習2 (マナー講習会)	・外部講師を招いて学年単位で学習する。 ・初対面の人とのコミュニケーションを図る。 ・講師と簡単なシンポジウムを開く。	・職業・勤労の目的や意義を理解する。(知理) ・ロールプレイングを通して、いろいろな場面での対応能力を身に付ける。(技表) ・コミュニケーション能力を高める。(技表)	・活動の観察。
(4)事前学習3 (職業調べ)	・自分が体験する職業について、インターネットや本を使って調べる。	・情報収集によりそれを職場体験に生かす材料とする。(技表) ・職業観を高める。(関意態)	・活動を観察。
(5)班会議	・班ごとに分担して役割分担する。	・集団の一員としての役割を担う。(技表)	・活動の観察。 ・役割分担表を点検。
(6)事前訪問	・職場へのあいさつを行う。 ・体験する職場の仕事内容の確認を行う。	・マナー講習で学んだ事を活用する。(技表) ・コミュニケーション能力や社会性を高める。(技表)	・活動の観察。 ・生徒の仕事内容を確認。
(7)3 d a y s	・職場体験を行う。	・体験学習を通して職業観、勤労観、コミュニケーション能力を高める。(思判・技表・知理)	・活動の観察。 ・事業所からの情報収集。 ・アンケート・感想を確認。
(8)事後学習	・感想・お礼状を作成する。 ・体験したことを壁新聞にまとめるなど、発表会に向け準備をする。	・集団の一員としての役割を担う。(技表) ・学習の成果をまとめることで、勤労の尊さや意義を認識・理解する。(知理)	・活動の観察。 ・壁新聞の点検。
(9)発表会	・学年単位で発表会を行う。	・集団で情報を共有し、人の生き方や進路に関する興味や関心を広げる。(関意態・知理) ・プレゼンテーション能力を高める。(技表)	・聞き手側の観察。 ・発表者の観察。

はコミュニケーション能力を高める活動

指導の留意点

- ア 1年次に取り組んだ進路学習の記録を見直し、職場体験につなげる。
- イ 資料などは、ポートフォリオでまとめ、具体的な記録として残せるようにする。
- ウ 生徒が行う活動を支援し、社会性を身に付けさせることを大切にする。

## 活動の実際

### ア 事前学習（社会生活における礼儀やマナーの事前学習）

昨今の企業研修では、新入社員に対して行う最初の研修として、「あいさつ」や「電話の応対」など社会人として当然身に付いていなければならない礼儀に関する内容を多く含んでいる。

しかし、それを学ぶべき機会もあまりないのが現実である。そこで、日ごろ礼儀を意識して生活する場面が少ない生徒に対して、ただ職業経験をさせるのではなく、職場体験に向けた指導の一環として、礼儀やマナーに関する指導が必要であるとする。

#### <事前学習 1（礼儀作法の学習）>

##### 活動のねらい

- ・社会生活上のルールやモラルの意義について考える。（思考・判断）
- ・社会の一員としての自覚をもち、責任ある行動をとろうとする。（技能・表現）

##### 指導のポイント（ワークシートを活用）

言葉遣い 服装 視線 姿勢 動作 心遣い

#### <事前学習 2（マナー講習会）>

##### 活動のねらい

- ・職業・勤労の目的や意義を理解する。（知識・理解）
- ・ロールプレイングを通して、いろいろな場面での対応能力を身に付つける。（技能・表現）
- ・シンポジウムを通して、コミュニケーション能力を高める。（技能・表現）

##### 活動のポイント

講師による講義 生徒と教員によるロールプレイング 講師と生徒のシンポジウム

司会	学習係		
時程	13:20	講師来校	打ち合わせ
	25	生徒体育館入場	
	30	マナー講習会	
		ロールプレイング(10分)	
		シンポジウム(30分)	
		講義(10分)	
	14:25	終了	

講師の動き		生徒の動き	
13:20	講師来校 校長室へ 打ち合わせ	13:25	体育館に整列 (学年委員)
30	体育館へ	30	放送委員準備 学習委員の司会 で開会 開会宣言 諸注意(教諭)
35	講師紹介(教諭) お話 質疑	35	講師紹介(教諭) 講師入場時拍手 開始 質疑応答
14:25	講師退場	14:20	お礼の言葉 (学習委員) 閉会宣言
		25	講師退場時拍手 教室へ移動 帰り学活



講師の先生によるマナー講習会

イ 「3 daysチャレンジ」 ～3日間のようす～

事前に1日訪問し、仕事の内容や当日の諸注意、持ち物などの確認を行い、3日間の体験の初日からスムーズにコミュニケーションが図れるよう取り組ませることにした。

3日間の活動の中で、教員が分担して事業所を回り、事業所の方と職場体験の在り方について話し合ったり、生徒たちの活動の様子をうかがった。「初日から大きな声であいさつをしてもらい気持ちよかった」「事前訪問があったので初日からすぐに仕事に入っている」「仕事が終わったり、困っているときは声を掛けてくる」など好意的な意見の反面、「生徒につきっきりになれる人手がない」「体験学習で何を学ぶのかわかっていない生徒がいる」という指摘も受けた。

1日の活動を終えて、中学校に戻った際、一人一人が充実感をもったことが、その表情からうかがえた。

「子どものおむつを取り替えたけど汚いとは思わなかった。」「料理をしていておいしいと言ってくれたときはうれしかった。残されるとつらい気持ちになる。」「写真家の人は身体をいつも鍛えているのかな？あんなに重い機材をいつも運んでいたんだ。」「いつも買い物しているときは気付かないけど、商品を店に並べるとき見やすく買いやすくするためにとても苦労をした」というような、日ごろなかなか気付かないことを口々に話していた。

活動も3日目になると仕事の要領もわかり余裕も見えてきた。「日を追うごとに園児がかわいくなってきて...将来保育士になりたい」「僕は、値札を付けるプロだ」「1日だけなら良かったけど、仕事を続けていくことって大変だ」という効果が確認でき、3日間実施することの良さを感じた。

訪 問 先 ( 2 7 カ 所 )

飲食	中華料理店	中華調理補助・皿洗い
飲食	大学食堂	食堂調理補助
飲食	本校給食室	給食調理補助
販売	大学購買	物品販売・倉庫整理
介護	高齢者福祉施設	高齢者介護補助
介護	福祉センター	高齢者との交流、施設整備
病院	総合病院	患者の話相手・食事の世話
学校	出身小学校	用務補助・学習補助
動物	動物愛護施設	犬の世話
販売	スポーツ用品店	スポーツ用品販売
販売	写真スタジオ	写真現像・編集・整理
販売	大型スーパー	物品販売・倉庫整理・
保育	幼稚園	保育補助
保育	保育園	保育補助
保育	児童館	保育補助
整備	自動車整備工場	自動車整備



中華料理店で割り箸の袋づめ作業



保育園での活動の様子

## ウ 事後学習

「3 days チャレンジ」終了後、感想文としてお礼状を作成し、それぞれの事業所に送付した。

今回の体験学習の情報を共有化するために、全体発表会を計画し、発表会に向けて、班員が協力して体験した内容を模造紙や、プレゼンテーションソフトでまとめた。発表原稿の作成、模擬発表などを重ねて当日を迎えた。全体発表会は、会場作り、司会進行、記録用紙の作成などを学習委員会が中心となって行った。各班5分程度の発表であったが、事前訪問から3日間の体験の内容を熱心に説明した。

なお、当日発表に使った模造紙はその後、廊下に掲示し、お互いの情報の共有化を図った。

### 考察

(表1) 生徒向け事後アンケート(%)

今回の「3 days チャレンジ」終了後、生徒および事業所にそれぞれアンケートをとった。このアンケート結果を基に、次の2点についてこの活動の有効性を考察する

**ア 職場体験に必要なコミュニケーション能力を高める**

調査研究、図C(本冊子10ページ)にあるように事業所は生徒のコミュニケーション能力を望んでいる。この「3 days チャレンジ」ではコミュニケーション能力を高めるために、

- ・生徒による電話交渉
- ・マナー講習会
- ・事前訪問
- ・3日間の体験学習

という内容を取り入れた。

事後アンケートを見る

と、生徒から(表1)も事業所から(表2)もこの活動を通じてコミュニケーションが図られていたと見られ、事前学習におけるコミュニケーション能力を高める活動は有効であったと考察する。

3日間を過ごしてどう感じましたか？ (楽しかった83% ・どちらでもない10% ・つらかった7%)
3日間という日程はどうでしたか。 (3日やって良かった87% ・2日程度がよい10% ・1日でよい3%)
1日目から事業所の方と話がきちんと出来ましたか。 (はい91% ・いいえ 9%)
1日目から仕事を始める上で、事前訪問は役に立ったと思いますか？ (役に立った 57% ・どちらでもない34% ・役に立たなかった9%)
マナー講習会は役に立ったと思いますか？ (はい42% ・わからない39% ・いいえ 19%)
あいさつはきちんと出来ましたか？ (よくできた59% ・まあまあできた40% ・あまりできなかった1%)
服装や身だしなみはきちんと出来ましたか？ (よくできた65% ・まあまあできた35% ・あまりできなかった0%)
3日間続けることにより、事業所の方とコミュニケーションは深まりましたか。 (はい69% ・わからない30% ・いいえ 1%)
3日間続けることにより、働くことの意義や充実感が深まったと感じましたか？ (はい77% ・わからない21% ・いいえ 2%)
あなたが訪問前にイメージしていた仕事と実際の仕事に違いがありましたか。 (イメージ通り51% ・イメージと違った49%)
班員とのコミュニケーションや協力ができましたか (できた61% ・どちらでもない34% ・できなかった5%)
この3 days チャレンジが、将来の職業選択の参考になったと思いますか (はい54% ・わからない35% ・いいえ 11%)

## イ 3日間を通じて職業理解能力を高める

多くの学校では、職場体験は事業所にも負担がかかるということもあり、1日で実施することが多い。しかし、これでは、仕事の説明を受けても短時間の経験で終わってしまい、正しい勤労観、職業観は育たず、将来の目的意識を高める活動にならない。

アンケートを見ると事業所も職場体験は中学生に必要であり、その上1日では少ないと考えている。きちんと趣旨を理解していただければ協力してもらえるはずである。

3日間の職場体験を通じて、77%の生徒が働くことの意義や充実感が深まったと感じてる。

また、半数以上の生徒が、この体験が将来の職業選択の参考になったと回答している。

これらのことから、3日間の「3daysチャレンジ」が将来の目的意識を高めるために有効であったと言える。

また、事業所のアンケートにも「1日ごとに生徒の表情が変わり積極性や責任感も高まっていた」というような感想が多く書かれていた。

この行事を実施するには多くの方々の協力が必要であり、準備もかなりの時間を要する。しかし、3日間の職場体験学習を事前学習、事後学習を含めて、計画的に実施することで、単なる職業理解能力だけでなく、コミュニケーション能力も育成することができることがわかり、一人一人の生徒の勤労観・職業観を育てるために、この職場体験学習は効果があると考察する。

(表2) 事業所向けアンケート(%)

	はい	どちらでもない	いいえ
中学生に職場体験は必要である	92	4	4
1日での体験は少ない	69	22	2
事前訪問は電話でも良い	17	22	61
生徒は真剣に取り組んでいた	86	14	0
あいさつはきちんとできた	72	23	5
マナー、態度は良い	67	32	0
指示をしっかり聞いていた	91	9	0
事業所のルールを守れた	95	5	0
積極的に仕事に関わっていた	68	27	5
コミュニケーション能力はある	91	9	0



発表会の様子

(2) 実践事例2 人間関係形成能力を育てる学級活動の工夫

題材名 コミュニケーション能力を育てるための会話の模擬体験

単元名 「立場や役割に応じた会話を考えよう」(ロールプレイング)

対象 中学校第3学年

題材設定の理由

本活動は、3年間を見通した指導計画に基づいて実施する。3年間を通して継続的に発表会を開催し、また、構成的グループエンカウンターやブレインストーミング、ロールプレイング発表会、など、様々な手法を用いて、学級活動を中心に人間関係形成能力を高める活動に取り組むこととした。本題材の設定については次のように考えた。

携帯電話、メール、インターネットなどコミュニケーションの図り方は様々になってきている。その一方でクラス内での生徒の会話は、同じ部活動、同じ趣味など共通な話題をもつ友だちに限定されている。自己紹介などの際に自分のことを話すことができない、場面や相手に応じて会話できない、自分の考えていることを伝えられない、伝えようとしていない生徒が増えている。そこで、人と話すことの楽しさ、意思を伝えることの大切さを生徒に感じさせ、その中で自己表現の方法について考えさせ、コミュニケーション能力を育成したいと考え、日常的な場面や、面接の場面を設定し、その役割に適した会話を考えて実践することで、コミュニケーション能力を育成することにした。面接のロールプレイングを、受験指導の一貫としての練習ととらえるのではなく、社会生活上のルール、マナーについて考えさせ、豊かな人間関係を築くために必要なコミュニケーションスキルを体験的に習得させ、コミュニケーション能力を高める活動とらえ本題材を設定した。

単元のねらい

- ・社会生活で人間関係を築く上で必要なマナーや会話の技能を体験的に習得する。
- ・体験を通して、コミュニケーション能力を高める。

評価の観点と評価規準

ア, 関心・意欲・態度	イ, 思考・判断	ウ, 技能・表現	エ, 知識・理解
(ア) コミュニケーションの図り方について積極的に考えることができる。	(ア) 話す言葉を考えながら会話をする楽しさ、難しさに気が付く。	(ア) 立場に応じた正しい言葉遣い、表情、身振りなどをを用いて自己表現する。	(ア) 立場による会話(言葉遣い)の違いを理解する。
(イ) 互いに協力、補完しあって活動することにより豊かな人間関係を作る。	(イ) コミュニケーション事例の中からその良いところを考える。	(イ) 礼法を踏まえ個性を感じさせる面接の受け答えを実践できる。	(イ) 言葉だけでなく表情、身振り、話し方による。雰囲気の違いを理解する。
(ウ) 設定された条件の中で積極的に自己表現する。		(ウ) 班員とのコミュニケーションを発展させる。	(ウ) 礼法をふまえ個性を感じさせる面接の受け答えを考える。

活動の流れとねらい及び評価方法

	ねらい・学習活動	評価基準	評価方法
1 時間目	<p>指導内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>接客場面での会話文 2 種類を自分で完成させる。</li> <li>班単位で一つの接客場面の会話を完成させる。</li> </ul> <p>学習活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>レストランなどの接客時を想定した会話を考えワークシートに記入する。</li> <li>ロールプレイングの役割分担を決め、班発表の準備を進める。</li> </ul> <p>ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>会話の流れを自分で考えることによりその楽しさ、難しさに気が付く。</li> <li>自他の個性を考え役割分担ができる。</li> </ul>	<p>ア - (ア)</p> <p>ア - (イ)</p> <p>イ - (ア)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業中の取り組みの様子</li> <li>会話を完成させるワークシート (個人用)</li> <li>班での活動の様子</li> </ul>
2 時間目	<p>指導計画</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>班単位で一つの面接場面での会話を完成させる。</li> <li>配役を決め面接場面の会話を実演するための練習をする。</li> <li>配役を決め接客場面の会話を実演する。</li> </ul> <p>学習活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各自の接客時を想定した会話例を参考にし、班で協力し会話例を完成する。</li> <li>完成させた会話例を班ごとに発表する。</li> <li>他の班の発表の良い点、感想を記入。</li> </ul> <p>ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日頃あまり会話しない生徒同士がコミュニケーションを図れるようにする。</li> <li>立場や役割に応じた会話を考える。</li> </ul>	<p>ア - (イ)</p> <p>ア - (ウ)</p> <p>イ - (イ)</p> <p>ウ - (ア)</p> <p>エ - (ア)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>班での活動の様子</li> <li>会話を完成させるワークシート (個人用、班用)</li> <li>模擬接客の内容決定へ取り組み方と自己表現の実践</li> <li>良い点、感想</li> </ul>
3 時間目 (本時)	<p>指導計画</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2 種類の面接事例のロールプレイの良い点を検討することにより面接する上での技能について考える。</li> <li>自己の面接について考える。</li> <li>班単位で一つの面接場面での会話を完成させる。</li> </ul> <p>学習活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>言葉や態度が不適切な面接について、その改善点を考える。</li> <li>会社や上級学校の面接を想定しワークシートに記入する。</li> <li>ロールプレイングの役割分担を決め、班発表の準備を進める。</li> </ul> <p>ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>立場や役割に応じた会話を考える。</li> <li>面接の方法について考える。</li> <li>自他の個性を考え役割分担ができる。</li> </ul>	<p>ア - (ア)</p> <p>ア - (イ)</p> <p>イ - (イ)</p> <p>エ - (イ)</p> <p>エ - (ウ)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>採点表に書いてある内容。</li> <li>採点結果の検討</li> <li>面接を完成させるワークシート (個人用)</li> <li>班での活動の様子</li> </ul>

4 時間目	<p>指導計画</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 班単位で一つの面接場面での会話を完成させる。</li> <li>・ 配役を決め面接場面の会話を実演するための練習をする。</li> <li>・ 配役を決め接客場面の会話を実演する。</li> </ul> <p>学習活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各自の面接の想定した会話を参考にして班で適切な面接例をつくる。</li> <li>・ 完成した面接例の役割を決めて実践する。</li> <li>・ 他の班の発表の良い点、感想を記入する。</li> </ul> <p>ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社会生活上のマナーをふまえ個性を活かした面接について考え自己表現できる。</li> <li>・ 班員同士のコミュニケーションを深め互いに協力することができる。</li> </ul>	<p>ア - (1)</p> <p>ア - (2)</p> <p>ウ - (1)</p> <p>ウ - (2)</p> <p>エ - (1)</p> <p>エ - (2)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 班での活動の様子</li> <li>・ 会話を完成させるワークシート (個人用、班用)</li> <li>・ 模擬面接の内容決定へ取り組み方と自己表現の実践</li> <li>・ 良い点、感想</li> </ul>
-------	---	---	--

本時の指導 (全4時間の3時間目)

学習内容	生徒の活動	指導上の留意点・評価 ( )
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 、 の2種類の面接例を行う。</li> <li>：言葉、態度に問題があるが自分の意見を言っている。</li> <li>：礼儀正しくよくまとった回答だが自分らしさが感じられない。</li> <li>・ 、 の面接を採点しその良い点を考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 面接のロールプレイングを見る</li> <li>・ 面接官の立場でもう一度面接例を見て10点満点で採点し良かった所を記入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 面接事例は教員と生徒で事前に打ち合わせをする。</li> </ul>  <p>ロールプレイングを見て、立場や役割に応じたコミュニケーションについて考えられるか。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ それぞれの採点結果、良かった所を発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 予想される生徒の反応は、 は得点が高く は得点が低い。</li> <li>のように礼儀正しく面接をすると相手に好印象を与えることを確認する。</li> </ul>



<ul style="list-style-type: none"> <li>面接の2つのポイントを理解する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>面接（コミュニケーション）のポイントを考える。</li> </ul>	<p>その一方で の良い所は声大きい、はっきりとした言葉などが大半を占めると予想される。</p> <p>ここで、「どちらが楽しかったか？それはなぜか？」など発問を工夫し の良い所をできるだけ引き出す。</p> <p>(例) 素直な意見である . 表情が豊かである 面接を楽しんでいる 自分らしさが感じられる等</p> <p>&lt;面接のポイント&gt; 個性を生かして自分の意見を言う事。 礼儀作法をふまえる事 この2点を理解させる。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>礼法を踏まえ個性を感じさせる面接について考える。</li> </ul>	<p>&lt;質問事項&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1, 本校を志望した理由</li> <li>2, 自分の長所、短所</li> <li>3, 高校でやりたいこと</li> <li>4, 中学校の思い出</li> <li>5, 高校卒業後の進路</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>面接の2つのポイントを意識させて答えを考えさせる。</li> </ul> <p>礼法をふまえ、個性を感じさせる面接の受け答えを考えているか。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>各班で立場や役割に応じた面接例を作る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒役、面接官役を決める。</li> <li>最低5つの質問を考え面接の会話を完成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒役、面接官役の人数、質問の個数などは班によって自由。</li> <li>相手に対して失礼のない礼儀作法について考えさせる。</li> <li>生徒役の人物像、考え方が伝わるような受け答え、話し方を考えさせる。</li> </ul>

面接事例

面接事例	面接事例
<p>面接官「どうぞ座ってください、あなたの学校と名前を教えてください」</p> <p>生徒 a「えっと、 x 中の。生徒名 A よろしく」</p> <p>面接官「本校を志望した理由を教えてください」</p> <p>生徒 a「いいよ。その1, 家が近いこと。3分以内に着いてみせるその2, 三者面談のときに受かる可能性があるって言われた。可能性があるなら受けなくちゃ。やっぱり。その3、これが最大の理由だからよく聞いといて通学途中にここの野球部の練習見ている俺もやりたいなって思ったから」</p>	<p>面接官「どうぞ座ってください、あなたの学校と名前を教えてください」</p> <p>生徒 b「 x 区立 中学校の生徒名 B です。本日はよろしくお願いします。」</p> <p>面接官「本校を志望した理由を教えてください」</p> <p>生徒 b「はい、文武両道をモットーとした貴校の校風にひかれぜひ、入学したいと感じました。」</p>

<p>面接官「本校に入学したら何がしたいですか？」</p> <p>生徒 a「えっ、さっき言ったよ。野球だって俺こう見えても結構足早いよ。そして、なんと言っても抜群の打撃センス。ここの野球部、強くも弱くもないから俺が入って強くしようって思った。でも、勉強もやる。勉強もできないと野球うまくならないし」</p> <p>面接官「あなたの長所と短所は何ですか？」</p> <p>生徒 a「決めたらやるってところかな。後は集中力。短所は・・・、特に無い」</p> <p>面接官「ボランティア活動についてどのように考えますか？」</p> <p>生徒 a「ボランティア？ああ、授業で地域清掃とか自転車整理とかやった。個人的には電車やバスで高齢者には席を譲る。」</p> <p>面接官「困ったことがあったら誰に相談しますか？」</p> <p>生徒 a「基本的には生徒名 C と生徒名 D、たまに生徒 D、進路関係は担任ね。厳しいけど、意外にいいところだよ。」</p> <p>面接官「それでは面接終わります。」</p> <p>生徒 a「ありがとう。俺、もちろん合格っすよね。さようなら。」</p>	<p>面接官「本校に入学したら何がしたいですか？」</p> <p>生徒 b「まず、高校生として恥ずかしくない学力を身につけたいと思います。また、小学校から続けている野球をやりたいと思います。」</p> <p>面接官「あなたの長所と短所は何ですか？」</p> <p>生徒 b「長所は明るく、元気で、何事にも積極的に取り組むところです。短所は、少し気が短いところです。」</p> <p>面接官「ボランティア活動についてどのように考えますか？」</p> <p>生徒 b「高齢化社会が問題になっている現在の日本においてボランティアと福祉の精神がこれから大切になってくると感じます」</p> <p>面接官「困ったことがあったら誰に相談しますか？」</p> <p>生徒 b「親友や先生方、そして家族にも相談します。」</p> <p>面接官「それでは面接終わります。」</p> <p>生徒 b「本日はお忙しいところありがとうございました。」</p>
	

### 授業分析

1	・ロールプレイングを用いた活動の工夫について
---	------------------------

前半 3 時間の班活動は互いに全く協力せずに別々に作業を始める班、誰が役者として発表するかを互いに押しつけあって 1 時間が終わってしまう班、何もしない生徒に対して全く声もかけず作業を続ける班など班員が役割を分担して協力できる班は 6 班のうち 2 班だけであった。この理由として、修学旅行など学校行事での学級活動のように班長、学習係などあらかじめ何か役職や仕事内容がきまっている学級活動が多く生徒同士の会話に重点を置いた学級活動が行われていなかったからと考えられる。実際に後半 2 時間の班活動は班替えをしたにもかかわらず前回に比べて活発な班活動を行う班が増えた。大変な役割を一部の生徒に押し付けずに全員で行う班や、自分から積極的に何かに取り組もうという生徒が増えてきた。

進路指導の上で面接の礼法指導は欠かせない。しかしながら、クラスのアンケートでは面接はしたくないという生徒が6割以上いる。その理由としては「自分のことが話せない」という生徒が最も多かった。そこで、一つの面接を何人かで考えてみる事にした。自分の思っていることが自分の言葉で表せなかった生徒も友達言葉の中からそのヒントを見つける生徒もいた。また、逆に面接官の立場になって質問を考えたり、様々なタイプの面接官を想定して楽しむ生徒もいた。同じアンケートを授業後に行ったところ面接はやりたくないと答えた生徒は半分以上になった。また、次の生徒のワークシートの回答は自分で面接を考える授業の時は白紙だったが第4時授業終了後のワークシートは自分のやりたいこと、やってきたことに関しては自信をもって記入できるようになった。

《生徒のワークシートの回答例》

Q 5 高校卒業後はどうするつもりですか？また、将来の夢は何ですか？

まだ、はっきりとは決まっていませんが福祉関係の仕事に就きたいです。理由は、道でおじいさんが転んだのを見て危ないと思ったからです。また、ボランティア活動もやってみたいと思います。

道で転んだ高齢者を助けてあげたことを友達に評価されたことがヒント

Q 8 中学校でがんばったことについて教えてください。

美化委員として活動しました。美化委員は朝の花の水やりが大変です。でも、わたしたちが水をあげないと枯れてしまうので毎日欠かさず水をあげました。

友達が「あなたいつも花に水あげてなかった？」と言われたことがヒント

#### 考察と今後の課題

今回の実践授業の結果、コミュニケーション能力を高めるためには1時間、2時間の活動ではなくゆっくり時間をかけなければならないと感じた。また、日ごろ接点のない生徒同士でも会話を必要とする場面を設定すれば生徒同士が必然的にコミュニケーションをとる。また、面接という本来は個人で考える課題ではあるが友達との互いを補いながら活動をする中で自分を理解することができる。例えば、友達の何気ない一言で自分の長所や頑張ったことに自信をもつことができ、それを自己表現に生かすことができた生徒が多くいた。班という集団でロールプレイングを用いて行った学級活動であるが、その中で自分を表現をするヒントをつかんだり、自信をもったりすることにより、自己を生かす能力が高められたと考えられる。

今後の課題としてはリーダー性のある生徒が少なく取り掛かりに時間がかかることがあげられる。また、今回は面接という題材のために11月という時期になってしまったが、学級作りの早い段階でこのようなコミュニケーション能力を育てる学級活動を行うことができれば、さらに効果があると考えられる。リーダーの育成、時期の再考が今後の課題である。

## 研究のまとめと今後の課題

### 1 研究のまとめ

特別活動において、自己を生かす能力を育てるために、「情報活用能力を高める」ことと「人間関係形成能力を高める」ことに着目して研究を進め、授業実践を通して、その有効性を確かめた。分科会1では、望ましい勤労観・職業観の育成とコミュニケーション能力の育成をねらいとして職場体験に取り組んだ。3日間の継続的な勤労体験に加えて、コミュニケーション能力を高める事前学習を取り入れた。体験後の生徒の言動やアンケート等から、働くことの意義を理解し、情報活用能力を高めることができたと考察できる。分科会2では、望ましい人間関係を築くためのコミュニケーション能力の向上をねらいとして、学級活動において会話の模擬体験に取り組んだ。入試対策としての練習になりがちな3学年の模擬面接を、社会人としてのコミュニケーション能力の向上に着目して取り組んだ。授業実践における生徒の変容から、役割に適した会話を考え、体験的な活動を取り入れ実践することで、人間関係形成能力を育成できたと考察できる。

キャリア教育の視点に立って自己を生かす能力を高める特別活動の在り方を探ってきたが、研究の結果から、これまで行われてきた活動をキャリア教育の2つの領域に関連させて指導の工夫を行うことが有効であったと考察する。これまで学級活動や学校行事などにおいて実践されてきた活動について、ねらいや指導計画を見直し、相互に関連づけて体系的に取り組むことが、これからの学校教育には必要である。

### 2 今後の課題

これらの活動は、学校全体の取り組みとして計画的・体系的に取り組んでいく必要がある。そのためには、教職員の共通理解が必要不可欠となる。学級活動や学校行事の時間の確保も大きな課題である。また、職場体験を実施するにあたっては事業所の協力が必要である。多くの学校で取り組んでいるにもかかわらず、体験先の事業所をそれぞれ独自で確保している学校が多い。事業所のネットワークを各学校が有効に活用するために、行政のサポートシステムが求められる。

#### 参考文献

- 「中学校学習指導要領」平成11年9月 文部省
- 「中学校学習指導要領 解説 - 特別活動編 - 」平成11年9月 文部省
- 「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議 報告書」平成16年1月28日 文部科学省
- 「キャリアプランニング 高校生のキャリア教育」高橋 誠著(株)エデュケーショナルネットワーク
- 「労働経済白書」平成16年9月 厚生労働省
- 「東京の教育に関する都民意識調査 報告書」平成15年6月 東京都教育委員会
- 「東京教育ビジョン」平成16年4月 東京都教育委員会
- 「進路指導」平成16年10月 日本進路指導協会
- 「13歳のハローワーク」村上 龍著 幻冬舎

平成16年度 教育研究員名簿（ 特別活動 ）

	区市町村名	学 校 名	氏 名
第1分科会	墨 田 区	文 花 中 学 校	相 原 武 志
	荒 川 区	第 九 中 学 校	阿 部 大 介
	八 王 子 市	館 中 学 校	持 田 晃
	小 金 井 市	小 金 井 第 二 中 学 校	松 浦 素 明
	羽 村 市	羽 村 第 三 中 学 校	増 田 功 司
第2分科会	中 央 区	日 本 橋 中 学 校	川 本 昌 実
	練 馬 区	石 神 井 中 学 校	松 谷 静 香
	江 戸 川 区	松 江 第 一 中 学 校	平 野 元 寛
	三 宅 村	坪 田 中 学 校	大 島 清 和

世話人 副世話人

担当 東京都教職員研修センター指導主事 青木 由美子

平成16年度教育研究員研究報告書

〔 東京都教育委員会印刷物登録  
平成16年度 第21号  
（東京都教育委員会主要刊行物） 〕

平成17年1月24日

編集・発行 東京都教職員研修センター  
所在地 東京都目黒区目黒1-1-14  
電話番号 03-5434-1974

印刷会社名 鮮明堂印刷株式会社